

叙 勲 者 ・ 表 彰 者

57年	勲六等宝冠章	成 沢 たかよ	看	松戸市立病院
〃	勲五等瑞宝章	星 野 ひ で	〃	自宅
58年	勲六等瑞宝章	軽 込 きぬ子	助	自宅
〃	勲六等宝冠章	沼 部 ト モ	助	自宅
〃	〃	吉 野 澄 江	助	自宅
〃	〃	大 塚 マ ス	看	自宅
〃	黄 綬 褒 章	小 川 高 子	保	自宅
59年	勲五等瑞宝章	黒 井 春 子	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	西 崎 歌 子	看	自宅
〃	勲六等旭日章	磯 野 国 松	看	元千葉大学附属病院
〃	勲六等瑞宝章	斉 藤 美 和	看	自宅
〃	勲七等宝冠章	関 川 セ イ	看	自宅
〃	勲五等瑞宝章	中 尾 アヤコ	看	千葉労済病院
60年	勲六等宝冠章	井 川 信 子	看	千葉社会保険病院
〃	勲五等瑞宝章	三 橋 千 代	看	特別養護上総園
〃	勲六等宝冠章	小 林 一二野	助	自宅
〃	勲六等宝冠章	宮 田 ち か	助	自宅
〃	勲六等宝冠章	飯 田 久 子	看	浅井病院
〃	勲六等旭日章	三 枝 一 郎	士	自宅
〃	勲六等宝冠章	行 木 あ さ	看	自宅
61年	勲五等瑞宝章	守 屋 貞 子	看	元国立習志野病院
〃	勲五等瑞宝章	丸 山 キ ヨ	看	元国立習志野病院
〃	勲六等宝冠章	森 と く	看	ナースバンク
〃	勲六等宝冠章	岩 内 栄 子		自宅
〃	勲六等宝冠章	林 幸 枝		自宅

62年	勲五等瑞宝章	宇部 ぶ さ	助	自宅
〃	勲六等宝冠章	石原 マツエ	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	子安 喜代子	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	根本 よ し	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	春山 志づゑ	看	総武病院
〃	勲六等瑞宝章	大岩 美 弥	看	児童愛護会一宮学園
〃	勲七等宝冠章	鈴木 せ つ	看	元天津小湊町
〃	勲五等瑞宝章	江野沢 数 枝	看	君津中央病院
〃	勲六等瑞宝章	加藤 正 子	看	自宅
〃	勲六等瑞宝章	田中 カツ子	看	自宅
〃	勲五等瑞宝章	根本 は る	看	東葛市川総合病院
63年	勲五等瑞宝章	中村 まき子	看	中村病院
〃	勲五等瑞宝章	梨木 フミエ	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	加瀬 く ら	助	千葉県看護協会
〃	勲五等瑞宝章	宇津木 オツル	看	元国立下志津病院
〃	勲六等宝冠章	木川 安 子	看	元東金病院
〃	勲六等宝冠章	平田 喜美子	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	吉野 みよ子	看	元国吉病院
〃	勲七等宝冠章	長友 た か	看	自宅
平成元年	勲五等瑞宝章	大塚 春 雄	看	千大病院
〃	勲六等宝冠章	石井 清 子	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	大森 も と	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	小倉 志 げ	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	山田 登喜代	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	岩瀬 順 子	看	自宅
〃	勲六等瑞宝章	市野 カツ子	看	自宅
〃	勲五等瑞宝章	大塚 千 代	看	元川鉄千葉病院

平成元年	勲六等宝冠章	青木久代	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	石井作	看	元千葉大学附属病院
〃	勲六等宝冠章	松岡タケ	看	自宅
〃	勲六等瑞宝章	菅谷すみ	看	元下総療養所
〃				
2年	勲五等瑞宝章	中村よし子	看	元千葉大附属病院
〃	勲六等瑞宝章	石川咲子	助	元旭中央病院
〃	勲六等宝冠章	江沢カスミ	看	自宅
3年	勲六等宝冠章	小野ミエ	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	坂井豊子	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	榭原さと子	看	銚子市立病院
〃	勲六等宝冠章	深山きよ	看	長生病院
〃	勲七等宝冠章	仲条千代子	看	自宅
〃	勲五等瑞宝章	福沢政子	看	同和会千葉病院
〃	勲五等瑞宝章	小川ちづ子	看	自宅
〃	勲六等宝冠章	田岡静	看	元柏戸病院
〃	勲六等宝冠章	深山芳枝	看	元千葉大附属病院

昭和57年	厚生大臣表彰	赤井 つる 浅野 花子	看 看	千葉県看護協会 船橋中央病院
60年	厚生大臣表彰	根本 よし 箕田 あさの	看 看	元国立習志野病院付属看護学校 自宅
61年	社会貢献者表	小井戸 可弥子	看	特別養護老人ホーム上総園
62年	厚生大臣表彰	越川 はる 加瀬 くら	保 助	千葉県母子衛生研究所 千葉県看護協会
平成3年	厚生大臣表彰	大藺 智子 三村 芳子	保 保	自宅 千葉市保健所

千葉県知事表彰受賞者

57年度 看護功労賞 (10名)

下屋敷 ツ ナ 千葉看護専門学校
 高 梨 ユキエ 富津保健所
 島 津 い く 開業助産婦
 大 谷 つ る 〃
 吉 野 正 子 〃
 野 中 喜久枝 川鉄千葉病院
 渡 辺 喜之恵 国立佐倉病院
 菅 谷 す み 旭中央病院
 宇 井 静 枝 多古中央病院
 風 見 初 枝 塩田病院

看護奨励賞 (10名)

小 池 キヨ子 市川市役所
 畑 ナ ミ 加藤病院
 小 川 ま す 開業助産婦
 渡 辺 喜 美 〃
 中 村 まき子 中村病院
 石 渡 ハ ル 国立下志津病
 荒 川 美 代 佐原中央病院
 関 川 セ イ 九十九里ホーム
 鈴 木 は る 星野病院
 能 星 フ ミ 君津中央 (大佐和分院)

58年度 看護功労賞 (10名)

今 井 ミヤ子 八街町保健センター
 生 貝 と く 郵便年金加入者ホーム
 萩 原 君 子 開業助産婦
 斉 藤 花 子 〃
 稲 垣 と み 〃
 斉 藤 は る 国立千葉病院
 古 川 梅 千葉大学附属病院
 吉 田 美也子 岡田病院
 高 橋 文 子 銚子市立病院
 加 瀬 ま さ 長生病院

看護奨励賞 (10名)

染 野 ミヨ子 県警健康相談員
 中 村 サ ト 開業助産婦
 泉 沢 志 げ 〃
 雨 宮 ま つ 〃
 畦 蒜 亀久江 〃
 及 川 善 七 国立下総療養所
 春 山 志づゑ 総武病院
 宮 國 旺 野田市福祉部あさいセンター
 大 田 あさ子 九十九里ホーム病院
 木 川 安 子 県立東金病院

59年度看護功労賞(10名)

池宮とく 厚生農業協同組合連合会
 増田久子 柏市役所
 天笠トシ 君津市役所
 大関夏子 大関助産所
 椎名幸子 椎名助産所
 大橋外茂枝 大橋助産所
 山田多喜 国立習志野病院
 金剛寺マサ 大野崎病院
 梶木もよ 成田赤十字病院
 杉山さく 白百合大多喜病院

看護奨励賞(10名)

山口トメ 八日市場市保健センター
 江波戸いし 八日市場市擁護老人ホーム
 萩川喜久 武久産婦人科病院
 清水よね 清水助産所
 渡辺すみ 渡辺助産所
 石橋多加子 石橋助産所
 野田昌江 千葉社保病院
 大塚芳春 中村病院
 丸島すま 特老ホーム長生共楽園
 飯田裕子 芙蓉会五井病院

60年度看護功労賞(10名)

箕輪とし子 佐原市役所
 高野花子 海上町役場
 丸嶋阿喜子 厚生農業協同組合連合会
 富谷みつ 富谷助産所
 中北さと子 中北助産所
 熱田美佐子 熱田助産所
 林むつ 林助産所
 高梨モト 国立千葉病院
 木村静子 野田看護専修学校
 西澤志津江 国療下志津病院

看護奨励賞(10名)

三浦博子 本埜村保健センター
 及川たき 野栄町役場
 井口雅代 開業助産婦
 平川つる
 重田やい
 菊間文 千葉市立病院
 千早美和子 菊田会習志野第一病院
 小野ミエ 復光会総武病院
 黒萩チイ 国療松戸病院
 三平静江 君津中央病院大佐和分院

61年度 看護功労賞(10名)

熱田 婦美江 厚生農業協同組合連合会
 石橋 さ た 旭保健センター
 北村 よし乃 千葉大学病院
 森本 美代 東歯大市川総合病院
 岡本 俊子 成田赤十字病院
 榊原 さと子 銚子市立病院
 大塚 千代 大塚病院
 飛田 トシ 大日方医院
 及川 せい 開業助産婦
 大森 文子 〃

看護奨励賞(10名)

鈴木 ゆき 楽寿園
 木島 利子 白子町役場
 八木 まさ子 中村病院
 太田 キセ 海上療養所
 積田 キク 県立鶴舞病院
 中村民 男 復光会総武病院
 斉藤 みち 開業助産婦
 斉藤 ふじ子 〃
 沢田 ハル 〃
 前田 ちよ 〃

62年度 看護功労賞(10名)

菅谷 うた子 (元)中央保健所
 林 竹子 (元)勝浦保健所
 大川 ふみ 三芳村役場
 富塚 近 開業助産婦
 須藤 ふじ 〃
 樋口 玲子 復光会総武病院
 柿沼 久枝 国立佐倉病院
 富田 一二枝 国立千葉東病院
 斉藤 英美子 千葉大学病院
 高橋 和子 国保成東病院

看護奨励賞(10名)

向 斐子 松戸市役所
 嶋根 フミ 開業助産婦
 君津 君 〃
 相田 若子 〃
 福田 加代子 旭中央病院
 大塚 春雄 石郷岡病院
 峰 島末子 同愛会渡辺病院
 鈴木 節子 京友会病院
 石丸 輝 国立下総療養所
 大原 豊 国保山武郡南病院

63年度 看護功労賞(10名)

松本良子 厚生農業協同組合連合会
 酒井トクエ 東金保健所
 栗山幸代 八千代保健センター
 染谷美代 開業助産婦
 徳田たけ 〃
 森とよ 千葉市立病院
 市野カツ子 特老 松岡園
 山崎タケ (元)千葉労済病院
 鈴木栄子 国保国吉病院
 中村美恵子 国立千葉病院

看護奨励賞(10名)

鈴木よし (元)光町役場
 安西ゆき 開業助産婦
 山田みよ 〃
 八木ふく 〃
 堀江喜江 医療法人藤倉病院
 渡邊照子 医療法人岡田病院
 小早瀬千代 市川市夜間急病診療所
 須藤うめ 鴨川市立国保病院
 丸山展子 復光会総武病院
 吉野美津子 松戸市立病院

平成元年度 看護功労賞(10名)

北島はな子 厚生農業協同組合連合
 牧野敏子 開業助産婦
 佐久間翠 〃
 實方きわ 〃
 神田君 佐原准看学校
 秋場きみ 夷隅准看学校
 野坂伸子 岡田病院
 大野時子 千葉大学病院
 星晴子 一条会病院
 久保田晴子 成東病院

看護奨励賞(10名)

鬼島ぎん 白里町役場
 八代くに 開業助産婦
 高橋みな 〃
 古川百合子 県立東金病院
 戸枝ミチ 千葉市桜木園
 伊東トメ 中村病院
 佐野恵津子 国立千葉病院
 平野富久 国保小見川病院
 宇賀昌子 国保松戸病院
 石塚京子 野田市保険センター

平成2年度 看護功労賞(7名)

司 関 節 子 東葛ナースバンク
 渡 辺 行 栄 市原市保険センター
 坪 井 妙 子 千葉市蘇我保険センター
 根 来 静 開業助産婦
 忍 田 チ ヨ
 児 玉 ト ミ 国保旭中央病院
 半 田 志穂子 放送大学保健室

看護奨励賞(10名)

関 たけ子 (元)勝浦市役所
 高 崎 昌 子 開業助産婦
 及 川 功
 久 野 田 總
 田 中 美代子
 谷 内 美智子 国立松戸病院
 岩 橋 一 子 京友会病院
 唐 津 孝 子 長生村国保直営診療所
 伊 藤 エツ子 檜田病院
 篠 塚 保 国保旭中央病院

平成3年度 看護功労賞(10名)

大 田 あ い 松戸市役所
 大 屋 あ き 茂原神経科病院
 上 木 壽 枝 江戸川病院
 杉 本 せ つ 斉藤労済病院
 岩 船 里 子 銚子市立総合病院
 小 澤 満佐子 国保市民病院
 鈴 木 登茂子 組合立東湯病院
 吉 次 千 代 組合多古中央病院
 窪 田 讓 浅井病院
 国 藤 昭 子 国保国吉病院

看護奨励賞(10名)

渡 邊 秀 代 銚子市役所
 佐 藤 房 子 開業助産婦
 忍 足 千 代
 積 田 と み 医療法人同和会千葉病院
 石 井 美 代 医療法人光洋会三芳病院
 島 田 佳 子 財団法人復光会総武病院
 山 崎 笑 子 国立療養所千葉東病院
 高 橋 兼 夫 式場病院
 寺 嶋 栄 子 社団普照会井上病院
 山 口 みな子 医療法人木村病院

教育事業の10年をふり返って

千葉県看護協会理事 湊 久代

千葉県看護協会理事 近藤 明子

協会活動の中で、会員の最大の関心事は、教育事業にあるといっても過言ではない。教育事業は日本看護協会千葉県支部と千葉県看護協会が共催で行ってきたもので、10年間の活動をふりかえると、その時々々の社会の動向や、医療構造の変化が垣間みられて大変興味深いものがある。

ここに10年間の教育活動をまとめてみた。

昭和57年、高齢化社会に突入し、老人問題が、クローズアップされ、研修内容も必然的に老人に関するものが多かった。

また、この頃、協会ではILO看護職員条約批准にむけて、躍起となっていたため、看護婦の労働条件についての勉強会が活発に開かれていた。

昭和58年は、成人、小児を問わずターミナルケア、予後不良患者に対する看護がとりあげられた。

母性においては、乳房管理や、その頃ようやく一般的となってきた。分娩監視装置への関心がたかまり、ME機器についての研修が行われた。

昭和59年には、人々の暮らしや、健康問題が社会的関心事で、地域看護研修会では、健康教育がとり上げられた。母性研修会では、この年話題となった、体外受精児誕生により、リプロダクションにおける今後の展望がトピックスとなった。

昭和60年は、病院と地域との連携の重要性が叫ばれ、在宅老人や、地域医療を担う訪問看護へのとりくみが討議されている。

昭和61年は、訪問看護研修会があらたに設けられ、体制作りへの足がかりとなっている。また、慢性疾患患者への援助の方法や、思春期の若者達の心理や、性に対する考え方を学ぶなど、時代に即応した学習の機会を作っている。

昭和62年の研修は、特に小児看護において、子供と家族関係、子供の心の病気への理解などが、折から社会問題化していた、いじめ、登校拒否、幼児虐待などの問題と共に話しあわれた。また三職能間での連携も活発化し、精神保健法改正を機会に、合同のパネルディスカッションが行われ、それぞれの立場からの発言を聞くことが出来た。訪問看護はますます関心を深め、実践にむけて動き出し、先進県より講師を迎えて講演会を開催している。

昭和63年は、在宅ケアの充実にむけて、寝たきり老人や、在宅療養について、具体的な技術や、家族指導、社会資源の活用方法について研修が行われた。

小児研修会では、成人病予備軍となりうる子供達の健康教育の一環として「食事」にス

ポットをあてている。

平成元年の研修は、医療をうける患者の立場からの発言や、希望を取りあげたり、ターミナルケアの研修会でも、それまでの一方的な医療やケアに対しての見直しがなされるなど、医療について反省の時期がきていることがうかがわれた。インフォームド・コンセントという言葉もこの頃より一般的となった。

母性研修会が周産期研修会と名称を変え、この頃より問題化してきた。STDをテーマとしてとりあげた。

平成2年、この年は看護を原点より問い直す研修テーマが目立った。「看護とは何か」「看護の役割とは」「死に行く人々に対する看護者の関わり」「子供の成長過程と遊びの問題」等々。

平成3年、管理研修会が発足した。看護管理の基本的な知識を学び、現場において教育的役割が果せることを目標とし、対象は実務経験6年以上の者とされた。

また、看護研究研修会も設けられ、若い看護婦の学習意欲と興味をかきたて、看護に対する愛着をふかめられることを期待している。

平成4年、自らの看護観の確立をめざし、専門職として認められる。実践能力、対応能力を拡大させる研修が行われた。平成5年度には組織総会のため、支部最後の年度として教育企画検討会も開催され、今後の教育事業について話し合われた。この年のはじめての試みとしてリフレッシュ研修会が開かれ卒後3年目の仲間が集い、楽しく語り、体を動かし、見違える様な気分職場に戻って行った。

組織統合を目前にして、ここ数年来、たかまっている看護職への期待の大きさを考えるとき、会員が医療従事者としての自らの役割を認識し、専門職業人としての実力をつけ、能力を発揮出来るようにするための、方向性を示すことが重要な課題となっている事に気付く。医療経済や国際化の問題も無視する事は出来ない。

10年間さまざまな変遷を経て、現在の充実した教育事業になっているが、この間、公私を投げうって御協力下さった、教育担当者、教育委員の涙ぐましい努力に心から感謝を申しあげるとともに、10年間で培った数々のものを次への踏み台として発展連続させていくことを、切に願うものである。

日本看護協会千葉県支部は平成5年4月1日を以って千葉県看護協会に統合され事業は継続されることになった。

教育事業実施状況

— 日本看護協会千葉県支部と共催 —

教育目的 (1) 看護専門職として、進展する医療の中の役割を認識し、社会の要求に応えるため自己の確立と能力の拡大をはかる。

教育目標 (1) 自らの看護観に基づき看護を展開できるよう、看護専門職としての各段階において、看護管理能力・看護実践能力・問題解決能力の拡大を図る。

(2) 看護の質の向上をめざして、その本質を追求し、専門職としての研究的態度を育成する。

(3) 継続看護を実践する為に、保・助・看相互の連携を図り、看護問題への対応能力の拡大を図る。

昭和57年度

研修名	ねらい	内容
地域看護 研修会	保健ニーズを保健婦として どうとらえ、どのように対 応していくべきか、地域に おける保健婦の役割を認識 する	<ul style="list-style-type: none"> ・老人保健と保健婦の役割 ・各地域のヘルスニードと保健婦活動の状 況報告 ・報告の中から討議を深め保健婦の役割 を認識し、実践に役立てる。 ・地域でどうすすめていけばよいかを理解 する。
保健婦業務検 討会		<ul style="list-style-type: none"> ・業務研究発表
看護婦・准看 護婦研修会	<p>日頃記録されている看護記 録の意義を考える。</p> <p>看護記録を実践活動に役立 たせるための知識と技術を 学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護記録の意義について ・患者ケアに於ける看護記録の活用 (看護過程の記録について) ・看護記録の実際 ① 患者ケアにおける看護記録の活用につ いて ② カンファレンスにおける記録活用の 実際と問題

研修名	ねらい	内容
総婦長、 婦長研修会	よりよい人間関係のなかで、 業務を遂行していくための 足がかりとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労務管理 <ul style="list-style-type: none"> ① 対人関係のあり方 ② 勤務表作成上の問題点のとりえ方と 解決策について ・ ILO看護職員条約 <ul style="list-style-type: none"> ① 現場看護と条約とのつながり ② 条約の理解
成人看護 研修会	<p>看護実践の立場から看護の 本質論を学ぶ</p> <p>講演をふまえて、日常の看護 活動をふり返り認識を改 める場とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における患者と看護婦の距離を考 える。 ・ 参加者のもつ問題点の中から選ぶ
母性小児看護 研修会	<p>リスクを有する周産期母子 管理について学ぶ</p> <p>小児期及び思春期のとりえ 方を学ぶ</p> <p>臨床看護と地域看護の連携 を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期について ・ 乳幼児期のこども <ul style="list-style-type: none"> －その理解のしかた－ ・ 妊産婦の継続看護 ・ 新生児未熟児の継続看護 ・ 小児の継続看護 ・ 周産期死亡に影響を与える因子 <ul style="list-style-type: none"> －ハイリスク妊婦の管理－
成人看護 研修会	高齢化時代のなかで老人の 自立を高めるために地域の 現状を知り、今後の看護の 知識と技術を研修する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人看護の基本 ・ 地域に於ける老人看護 ・ ボケの看護 ・ 老人の生理と心理 ・ テーマ 老人の自立とリハビリを中心に

昭和58年度

研修名	ねらい	内容
成人看護 研修会	その人らしい生を全うするために看護職としての援助のあり方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアについて医師の立場から講演を聞き午後グループワーク。 ・看護の立場からの講演を聞き午後グループワーク。
小児看護 研修会	小児の心理をふまえて看護援助ができること	<p>児童精神科の医療現場で感ずること 病気をもった子供の看護の問題点 特に予後不良患児の看護等について グループワーク2日間のまとめ発表</p> <p style="text-align: right;">} 講演形式</p>
母性看護 研修会	地域における母子対策及び産科MEの知識、妊産婦の精神障害について学び実践に役立てる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松戸市の母性育成のこころみ 2. これからの母親学級のあり方 3. 乳房管理の実際 4. グループ討議 5. 妊婦、産婦の精神障害について
第2回 看護研究発表会	研究発表 20題	講師 千葉大看護学部教授 佐藤礼子先生
保健婦業務 検討会	研究発表 4題	講師 千葉大看護学部教授 平山朝子先生 質疑 意見交換
第2回訪問 看護講習会	地域老人保険事業における訪問看護実施にそなえ、リハビリテーション、コミュニケーションの技法を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション技法 2. 老人健康事業について 3. 訪問指導におけるコミュニケーション技法

昭和59年度

研 修 名	ね ら い	内 容
小児看護 研修会	小児の発達過程を学び障害 児及び患児の看護に役立て る	1. 発達の基本とその見方 2. 障害児をもった母親の心の変化 3. 病児を理解するために 4. グループワーク
成人看護 研修会	ターミナルケアー基本を学 び実践に役立てる	1. グループワーク (ターミナルケアーにおける私達の問題 点) 2. ターミナルケアーにおける3基本 3. 看護におけるターミナルケアー 4. グループワーク (私達の現実的なターミナルケアー)
地域看護 研修会	健康教育に関する知識を学 び疾患の予防に役立てる	1. 健康教育の実践報告 2. 事例発表3題、講師の助言
母性看護 研修会	母性相談における対応のあ り方を学ぶ 不妊症の治療及び体外受精 について現状と将来展望を 知る	1. グループワーク (母性における相談と保健指導) 2. 母性における相談と指導 3. 体外受精の現状と展望 4. 出産をめぐる諸問題
看護研究 発表会	研究発表 14題	3群とし座長 3名
保健婦業務 検討会	研究発表 4題	講師 千葉大学看護学部教授 平山朝子先生 質疑 意見交換
第3回 訪問看護講習会	老人保健事業における訪問 看護をとりまく諸問題及び 老人の生理を知り訪問看護 の実践に役立てる	1. 訪問看護交流会の報告 2. 県内訪問看護の現状 3. 老人保健事業とは 4. 老人の生理と看護の実際

昭和60年度

研修名	ねらい	内容
成人看護 研修会	看護の対象として高齢者が増えている中で、人生の終末を迎えた人に対して、どのような援助ができるだろうか改めて考えてみる機会とする。	1 在宅老人と看護指導 2 外来における高齢者の看護 3 中高年からの心の健康 4 老人ホームにおける看護の実際
小児看護 研修会	親子関係の理解を深め、親を含めた小児へのかかわり方を学ぶ。	1 胎児期～乳児期における母子関係 2 幼児期における母子関係 3 グループワーク
地域看護 研修会	地域における看護活動の発展に役立つ知識と技術を習得し、効果的な対人保健サービスの向上をはかる。	1 地域における看護者の役割 2 グループワーク 3 よりよい地域看護を展開するために 4 地域看護の現状（千葉県の実状から）
訪問看護 研修会	訪問看護活動の推進を図るため、基本的な知識・技術を学び実践する能力を養う。	テーマ 訪問看護への取り組みを考える 1 訪問看護の特色 2 地域医療における訪問看護の位置づけ 3 家庭看護をすすめるための看護技術 4 実践報告（3例）
保健婦業務 検討会	地域における保健ニーズをどうとらえ、どのように対応していくべきか日常業務を通して保健婦の役割を考える。	活動事例の検討
母性看護 研修会	（関プロ研修参照）	

昭和61年度

研修名	ねらい	内容
成人看護 研修会	成人期における慢性疾患患者がかかえる問題を知り、看護者としていかに援助すべきか考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1 難病の最近の動向 2 制度を知る講座 3 事例報告 4 慢性疾患患者がかかえる問題とよりよい援助
母性看護 研修会	思春期保健の最近の動向を知り、対象に自立への援助ができるための知識技術を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1 「生.3 を考える」思春期妊娠 2 思春期,の心理 3 思春期の身体的発達 4 母SZ " f性の発達
小児看護 研修会	幼児期から学童期における母子関係の理解を深め、母親を含めた小児へのかかわり方を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児期～学童期における母子関係 2 幼児期～学童期の現状と問題点 3 入院による母子分離状況が児に及ぼす影響
訪問看護 研修会	訪問看護活動を推進させるため、実践上の問題点を明らかにし、地域における取り組みを考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1 市川市における訪問看護の現状と問題点 2 訪問看護体制づくりへの取り組み 3 訪問看護を考える。事例報告を含めて。 4 神奈川県における訪問看護のシステム化について
地域看護 研修会	地域住民の健康を守るため、地域の看護職間の相互理解を深め、役割を確認する。	臨床看護や公衆衛生看護の実践を報告し、問題点を検討する（成人事例、母子事例を選んで実施する）
保健婦業務 検討会	地域における保健ニーズに、どのように対応していくべきか日常業務を通して保健婦の役割を考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1 母子保健の動向と保健婦に期待するもの 2 ライフサイクルからみた母子保健の現状と問題点 3 活動事例の検討

昭和62年度

研 修 名	ね ら い	内 容
成人看護研修会（内科系）	長期経過をたどる慢性疾患患者に対し、各人の生活に即した看護展開はどうあるべきかを探求する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例報告（リウマチ患者3例） 2. 「リウマチ」内科医の立場、整形外科医の立場から 3. 慢性疾患患者の看護のあり方 4. グループワーク
成人看護研修会	外科的処置（手術）を受ける老人に意識的に目を向け、多様なニーズに対応するための援助技術を修得する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人の特殊性とその対応、合併症と感染予防 2. 外科的看護技術 3. 現場でかかえる問題点についてグループワーク
母性看護研修会	周産期看護の問題を明らかにし、看護者としての役割を考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期看護と助産婦の課題 2. 現代における周産期医療の問題点 3. グループワーク（現場の問題を出し合い看護者のあり方を検討する）
小児看護研修会	家族関係の成立と子供の発達を理解すると共に、家族関係や諸々の要因によって引き起こされる子供の心の病気の理解と、その看護について学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族関係の成立と子供の発達 2. 心の病気と家族 3. 子供の情緒障害について 4. 事例報告（不登校、喘息患者の看護）
地域看護研修会	精神保健衛生を取り巻く情勢の変化に対応して、看護を考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神衛生法の改正と今後の展望 2. 地域精神保健を推進させるために－パネルディスカッション 3. 地域看護への取り組みを考える－グループワーク
訪問看護研修会	訪問看護をとりまく現状を認識し、実践に向けてそれぞれの所属で何ができるか、自己の立場と役割を確認し、地域の訪問看護の実践に向けて検討する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県の現状とこれからの看護 2. 山梨県における訪問看護制度化への経緯 3. グループワーク （講演を受けて、それぞれの立場で問題点を出しあう）
保健婦業務検討会	日常業務を通して保健婦活動のあり方を考え、今後の活動に反映させる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動事例の報告と検討 2. 講評

昭和63年度

研修名	ねらい	内容
母性看護 研修会	<p>1. 現代女性の母性観を理解し、母子を支える看護者としての役割を考える</p> <p>2. 今、助産婦とは —現状を振り返り、助産婦としての役割を考える—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「現代女性の母性観」 ・パネルディスカッション 「母子を支える看護者としての役割を考える」 ・講演 「助産婦と取り巻く現状と課題」 ・グループワーク 「助産婦の役割を考える」
小児看護 研修会	<p>最近増えている小児の成人病予備軍の実態を認識し、小児にとって望ましい食生活の在り方を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「小児の成人病予備軍の実態」 ・なのはな体操 ・講演 「最近の小児の食事について」 ・グループワーク
成人看護 研修会	<p>長期経過をたどる呼吸器疾患に対して看護の展開を探る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「呼吸器疾患の中で低肺機能を起こす疾患の最近の医療について」 「在宅酸素療法の器具と管理上の注意点について」 「在宅酸素療法をしている患者の在宅へ向けての看護の在り方」 ・事例報告 ・グループワーク
地域看護 研修会	<p>「精神保健法」の施行に伴う看護の今後の在り方を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「精神保健法」改正後の精神障害者を取り巻く現状と問題点について 「精神保健法の主なる改正点について」 「精神科外来における看護の現状と問題点」

研修名	ねらい	内容
		<p>「地域で精神障害者が生活できるために、看護の果たす役割を考える」</p> <p>グループワーク</p>
<p>訪問看護 講習会</p>	<p>在宅療養者及び寝たきり老人等に対する看護の方法 家族保健指導方法の充実を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演 「保健、医療、福祉の社会資源の活用」 「人工肛門、人工膀胱の病態生理について」 「人工肛門を持った人への看護の実際」 「人工肛門患者の自立を阻むもの」 「対象者及び家族関係の特性と理解」 ・ グループワーク
<p>訪問看護 研修会</p>	<p>在宅ケアの充実を図るため、訪問看護の実情や問題点を出しあい、今後の方向性を見いだす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 「在宅看護を実践して」 「訪問看護事業委員会が目指すもの」 「在宅ケアを受け入れて」 ・ グループワーク
<p>保健婦業務 検討会</p>	<p>各種の保健事業を通して、保健婦活動の在り方を検討し、今後の地区活動を充実させ、地域住民の健康維持、増進に役立てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般健康診査に関わる保健婦の役割 ・ 機能訓練を実施して ・ 母と子の育児グループの組織育成を試みて ・ 地区活動の原理にそって ・ 講評

平成元年度

研修名	ねらい	内容
母性看護 研修会	1. 母子をとりまく社会環境を理解しよりよい看護援助を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 助産婦課程新カリキュラムについて ・グループワーク 望ましい助産婦像をえがき質の向上について考える
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 現代女性の母性意識と保健指導 ・講演 母子感染について
地域看護 研修会	施設内外でのターミナルケアについて理解し今後のケアのあり方を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 ターミナルケアの現状と課題 ・グループワーク 職場におけるターミナルケアの問題点について話合う ・講演 私はこう生きたい 患者の立場から ・グループワーク 看護職としてターミナルケアのあり方を考える
成人看護 研修会	尿路疾患と看護、特に尿管カテーテルの扱い尿路系ストーマーの基本的なケア、リハビリについて学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 尿路感染の防止と管理 ・講演 尿路系ストーマーの管理 ・講演 尿路系疾患と感染について ・実技 ストーマーケアについて
小児看護 研修会	小児ぜんそく児に対する医療、看護、教育面の援助から小児慢性疾患看護のあり方を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 小児喘息の最近の医療 ・事例提供 喘息児の看護 臨床看護の立場から 地域看護の立場から ・講演 喘息児に対する日常生活の援助ー鍛練の実際ー ・グループワーク 喘息児の看護のあり方を考える
保健婦業務 検討会	保健事業をとおして保健婦活動のあり方を検討し地域看護の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・事例提供 <ol style="list-style-type: none"> 1. 胃がん検診未受診に関するもの 2. デイケアクラブの活性化をめざして 3. ALS患者と家族を支えて 4. 機能訓練事業における取組み ・講評

平成2年度

研修名	ねらい	内容
周産期看護 研修会	WHO早期産定義改正をめぐる諸問題について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「NICUにみる母子関係とかわり」 ・講演「早期出生児の治療と予防」 ・フロア・ディスカッション
看護研究 研修会	看護研究の目的と方法について基礎から学び、日常業務のなかでの研究的態度はどのようなものかを考える	臨床での看護研究の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ・講演「みんなで考える看護研究（その1）」 ・講演「みんなで考える看護研究（その2）」 ・フロア・ディスカッション
成人看護 研修会	①死にゆく人々に対する看護者の態応・姿勢について学ぶ ②終末期患者のQOLを高めるためのケアとは何かを理解し、その援助について学ぶ	ターミナルケアを考える <ul style="list-style-type: none"> ・講演「死にゆく人とのかわり」 ・グループワーク ・講演「終末期患者のQOLを高めるケア」
地域看護 研修会	患者をとりまく家族を理解し、有効な援助方法を学び家族ダイナミックスの理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「家族理論と援助の視点」 ・事例学習 ・ロールプレイ学習 家族の立場を理解するために ・グループワーク
小児看護 研修会	小児の「あそび」が乳幼児期の心身の発達にどのような影響を及ぼすかを考えに応じた援助を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「乳幼児の発達と遊びの意義」 ・実践報告「地域における乳幼児教室活動ーよりよい母子関係の確立をめざして」 ・映画「アリサ」 ・実践報告「入院児のあそびについて」 ・プレイ学習 ーあそびの体験学習ー
保健婦業務 検討会	保健事業をとおして、保健婦活動のあり方を検討し、地区活動の充実をはかる	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表及び検討 ①遊び方教室を実施しての成果と今後の課題：鎌ヶ谷市 ②待っているだけでは遅い精神保健相談：佐原保健所

研 修 名	ね ら い	内 容
		③在宅療養者のケアシステム化をめざした 「集い」のあり方Ⅱ報：習志野保健所 ④町の健康づくり対策にとりくんで：関宿 町

平成3年度

研修名	ねらい	内容
卒後2年目 研修会	看護の実践を振り返り、看護に対する自分なりの目標を見つけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「看護の魅力」 ・グループワーク ・講演 「現代（いま）を輝いて」
看護管理 研修会（基礎）	看護管理の基本的な知識を学ぶことにより、現場において教育的役割を發揮し、よい看護が提供できる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・講演、演習 「管理と動機づけ」 ・講演 「看護管理について」 ・グループワーク
周産期看護 研修会	若年出産における心理的・社会的・諸問題について考える	<p>若年出産者と家族の援助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演 「若年出産に伴う諸問題」 ・講演 「若年出産の現状」 ・グループワーク
小児看護 研修会	小児期の成長発達に影響を及ぼす要因を学び、援助のありかたを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「小児の発達について」 ・講演、実習 「施設内において小児の成長発達を促す生活体験への工夫」
成人看護 研修会	慢性疾患を持つ患者が、自己管理できるための援助方法について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習 健康教育の具体的なアプローチ 「アプローチ方法の実際」
老人看護 研修会	老人の性生理を理解し、日常生活での援助を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「老人の性生理と性の問題について」 ・グループワーク
地域看護 研修会Ⅰ	長期経過をたどる精神難病患者各人の生活にそくした看護援助を探究し、支援体制づくりを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 「支援体制づくりの実際」 ・シンポジウム 「ケア・システムを考える」

研 修 名	ね ら い	内 容
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク
地域看護研修会Ⅱ（保健婦業務検討会）	保健婦活動を研究的視点で検討することにより、地区活動の充実を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表及びフロア・ディスカッション ①住民が参加する在宅ケアをめざして：本埜村保健センター ②長生き教室を実施して：鴨川市 ③個別支援の視点から検討した精神保健事業の見直し報…個別支援の課程を振り返って：銚子保健所
精神看護研修会	日常生活における危機状況・ストレスについて理解し自己管理法を学ぶ （テーマ） 看護職のためのストレスマネジメント ー危機状況の克服と“若さ”増進プログラムー	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習 「今、なぜストレスマネジメントなのか」 「ストレスマネジメントの必要性」 「ストレスマネジメントの理論と技術」 「ストレス免疫訓練法」 「ストレスマネジメント技法としての若さ増進プログラム」 「気分よく生きるためのコンピュータストレスチェック」 「リラクゼーション ビデオ・レッスン」 「ストレス解消エアロビクス」
＊看護研究研修会	看護研究の目的と方法について体験をとおして学び、看護実践の場での研究を推進できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 「看護研究について」 「テーマと方法」 「調査研究」 「事例研究の方法」 「事例のまとめ方」 「調査結果の分析方法」 「報告書の書き方」 「抄録のまとめかた」 ・グループワーク
＊教育企画検討会	教育目標を明らかにし、継続教育の在り方、位置付けを学ぶことによって、平成4年度研修を企画することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育企画についての基本方針について ・平成4年度教育目標の確認 ・平成3年度活動報告 ・グループワーク

看護研究発表会10年のまとめ

千葉県看護協会理事 浜野孝子

千葉県看護研究学会委員長 赤井ユキ子

昭和57年は保助看3部会の組織統合が行われ、つづいて千葉県看護協会が社団法人として設立された年である。

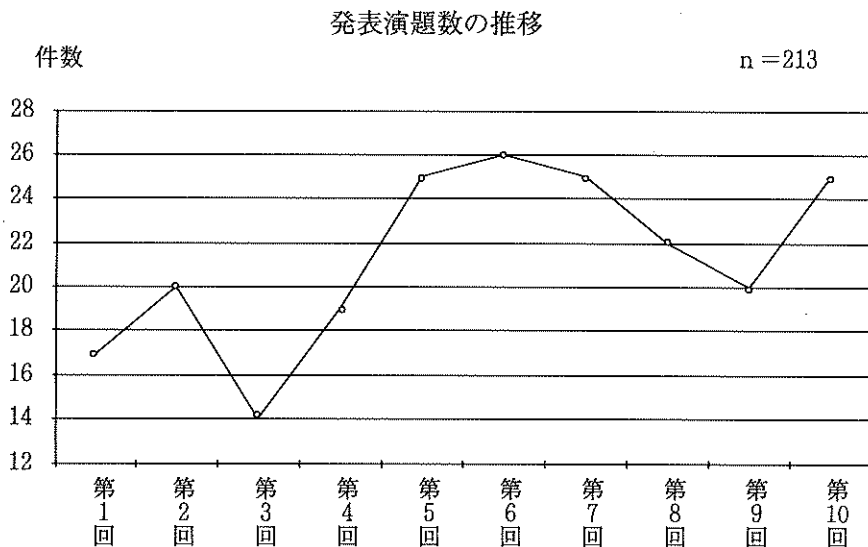
そこでこれまで県委託事業であった経緯をふまえて千葉県看護協会の事業として位置づけあらためて第一回の看護研究発表会がスタートした。それまでは参加者に抄録を配布しての発表会であったが、この回から集録を作成配布することになり、運営形式も新たになった。

発表内容も1人の患者を中心とした症例研究の傾向から、患者をとりまく家族・環境の問題点、在宅看護、継続看護等々看護の広がりが見られる発表へと変り、時代を反映しているものとなった。会員各位の看護への情熱、研究への熱意が感じられる10年であった。

ここに10年間の発表演題を集めて分類しその推移を検討してみた。

発表演題数の回別比較

10年で発表された総演題数は213演題であった。第三回が14演題と最もすくないが、その後は増加傾向にあり20演題を下回することはなかった。演題数が多く二会場で行ったこともあり、尚一部を紙上発表にせざるを得なかったこともあった。



分類項目別比較

演題を分類項目別にみても、総件数においては基本的看護・技術に関する内容が26%と最も多く、次いで心理・行動、看護管理・施設管理に関する内容がそれぞれ14%、9%になっている。

各回別比較においても基本的看護・技術に関する内容の占める割合が多く、16%（第5回）～35%（第2、6回）となっている。逆に発表の全くない項目を除いて発表頻度の低い内容としては、看護及び関連領域の歴史、健康看護、難病看護がそれぞれ各一例ずつとなっている。

演題の分類項目別比較

——日本看護関係文献集 第22巻に沿って——

No.	分類項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
1	看護及び関連領域の歴史	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2	看護及び関連職種の教育	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4
3	代謝・栄養	0	2	1	1	3	0	1	2	1	1	12
4	心理・行動	1	4	3	5	4	2	0	2	1	7	29
5	基本的看護・技術	5	7	4	5	4	9	3	5	6	7	55
6	看護婦・患者関係	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	4
7	健康看護	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
8	母性看護	3	0	1	1	1	1	1	0	1	0	9
9	感染看護	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
10	癌看護	1	0	0	1	1	2	4	1	2	1	13
11	難病看護	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
12	手術と看護	2	0	1	0	1	2	3	2	1	1	13
13	集中治療看護	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1	5
14	救命・救急看護	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3
15	精神看護	0	0	0	0	1	1	3	0	0	2	7
16	感覚機能・障害と看護	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	7
17	リハビリテーション	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
18	看護工学	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4
19	看護管理・施設管理	0	0	1	1	4	2	4	3	2	2	19
20	家庭看護・在宅看護	0	1	1	1	1	2	1	2	1	1	11
21	地域保険および環境保健	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	5
22	その他	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5
合計		17	20	14	19	25	26	25	22	20	25	213

発 表 演 題 の 内 容

	演題数	内 訳	
第1回	17	1. 卒後教育に関するもの 2. 術後の看護と自立に関するもの 3. 産科、婦人科看護に関するもの 4. 継続看護に関するもの 5. 看護用具の工夫に関するもの 6. 性に関する実態調査(2)	3 2 3 4 3 3
第2回	20	1. 糖尿病と心疾患に関するもの 2. 呼吸管理に関するもの 3. 頸部手術看護に関するもの 4. 小児看護に関するもの 5. 意識障害者の訪問及び教育調査に関するもの 6. 結核とのかかわりに関するもの	4 3 3 3 4 3
第3回	14	1. 小児看護に関するもの 2. 母性看護に関するもの 3. 呼吸器疾患の意識障害に関するもの 4. 在宅看護に関するもの	
第4回	19	1. 母親指導、発声の試み、栄養に関するもの 2. 看護用具の工夫及び院内感染に関するもの 3. 肥満、HB陽性患者等に関するもの 4. ターミナルケアに関するもの	5 5 4 5
第5回	25	1. 乳児ポツヌリ症児看護、その他に関するもの 2. 婦人科手術患者の不安等に関するもの 3. 糖尿病患者指導に関するもの 4. 白血病看護と気管切開後の看護のかかわり 5. 地域看護に関するもの	4 6 6 4 5
第6回	26	1. 申し送り、新生児看護に関するもの 2. 術後看護、照射及び化学療法にかかわるもの 3. 精神看護に関わるもの 4. 患者の不安、援助に関するもの	5 5 4 4

	演題数	内 訳	
		5. ターミナルケアに関するもの	4
		6. 家族指導に関するもの	4
第7回	25	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安楽に関するもの ・集中ケアに関するもの ・ターミナルケアに関するもの ・自立への援助に関するもの ・保健指導に関するもの ・精神看護に関するもの 	4 4 5 4 5 3
第8回	22	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の心理行動に関するもの ・看護教育及び管理に関するもの ・生活指導に関するもの ・看護基準、手順に関するもの ・家族、社会への働きかけに関するもの 	5 4 5 4 4
第9回	20	<ul style="list-style-type: none"> ・管理及び看護基準、手術に関するもの ・患者心理及び用具の工夫に関するもの ・生活指導及び家族への働きかけに関するもの ・ターミナルケアに関するもの 	5 5 5 5
第10回	20	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理及び手順に関するもの ・患者指導に関するもの ・個人への働きかけに関するもの ・誌上発表 	5 5 5 5

地区部会別発表演題数

平成3年度現在で地区支部は13施設、加入施設323となっている。地区部会別に延べ発表演題数を比較してみると、千葉第一地区部会が73演題と最も多く全体の34%を占め、次いで船橋地区支部30演題（14%）、千葉第二地区支部24演題（11%）、市原地区支部21演題（10%）となっている。

各地区支部における発表施設と未発表施設との関係は、全加入施設323施設中、発表経験のある施設は50施設でわずか16%弱にすぎない。

地区部会別に発表施設と未発表施設の割合を比較すると、市原地区部会が31%で最も多く次いで千葉第二地区支部29%、千葉第二地区支部25%となっており、船橋地区支部、市川地区支部がそれぞれ22%、15%である。

おわりに

多忙な実践現場の業務の合間であるいは自己の時間を全力投球して、看護研究発表会に参加された会員の皆様の努力に敬意を表します。組織統合が行われて第一回から第十回までに延べ213演題を数えるに至りました。それまでの抄録配布形式から全文の収録配布形式に変わり、論文の提出が早まることになり、制約された現場では大変な苦勞であったことと推測されます。

発表内容に関しては、日本看護協会の日本看護関係文献集に沿って分類してみました。しかし日本看護学会では系統別に学会を持っているのに比し、県段階ではまだ演題をしぼるまでにゆかず多少分類に無理があった感がします。発表されている項目内容に関しても基本的看護・技術に関する発表内容が大半をしめており、項目に偏りが見られました。逆にこのことは日々の看護現場における問題意識の追求心、あるいはより良い看護への取り組む努力の結果の表れであるともとれます。

地区部会別に発表演題数を比較してみたが、12地区部会50施設全体でみると発表経験の施設は少なくわずか16%弱に過ぎない。また発表施設の概略は会員の規模に関係なく、施設の研究的取組の意識等諸条件に左右される理由があるものと考えられます。これまで全く発表経験のなかった地区部会の会員各位の取組も含めて今後の広がり期待します。

研究の課程における体験は個人の成長に得がたいものを残してくれると確信しており、その研究体験はいつかどこかで必ず光る時があると思っています。実際に研究体験をした人あるいは他者の貴重な研究体験から学びを得た人、それぞれに学びの方向に違いがあります。しかし、看護への情熱、向上心に関しては共通点があるはずで、これまでの貴重な会員相互の体験からさらにレベルの高い研究が発表されることを願っています。

ナースバンク事業

千葉ナースバンク 岡崎 須美子

千葉ナースバンク 柿沼 久代

本事業は当時の看護婦不足対策として昭和49年度に厚生省令により全国各県に設置されたものである。

当時は日本看護協会千葉県支部として日本看護協会の法人格を借用して県からの委託を受けることになった。

その後昭和57年社団法人千葉県看護協会が設立され、法人格を取得したので同年10月改めて県から千葉県看護協会に委託され今日に至っている。

その間事業所も転々と変ったが、看護会館の竣工により昭和61年会館の一室に移り業務を行っている。尚登録者数、求人・求職相談数、就業者数等は国の施策、医療社会の状況、景気の動向等により変化をもたらしているがその動向は数字の中から汲取れる。

ナースバンク便りは昭和49年度開設年度に創刊号を発刊し、年間2回の発刊をつづけて来たが平成3年以降は年3回発刊している。

ナースバンクだより発刊状況

年 度	号	年 度	号
昭和49年	創刊号	昭和59年	20号 21号
◇ 50年	2号 3号	◇ 60年	22号 23号
◇ 51年	4号 5号	◇ 61年	24号 25号
◇ 52年	6号 7号	◇ 62年	26号 27号
◇ 53年	8号 9号	◇ 63年	28号 29号
◇ 54年	10号 11号	平成元年	30号 31号
◇ 55年	12号 13号	◇ 2年	32号 33号
◇ 56年	14号 15号	◇ 3年	34号 35号 36号
◇ 57年	16号 17号	◇ 4年	37号 38号 39号
◇ 58年	18号 19号		

年度別ナースバンク事業実績

(1) 新規登録者数

年度 職別	昭和 57年度	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元	2年	3年	計
看護婦	209	216	240	216	223	219	192	187	286	309	2,297
准看護婦	176	183	232	191	168	136	122	106	114	140	1,568
助産婦	20	25	19	14	6	16	8	10	7	23	148
保健婦	19	26	24	15	25	20	33	14	20	22	218
計	424	450	515	436	422	391	355	317	427	494	4,231

(2) 相談指導件数

年度 職別	昭和 57年度	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元	2年	3年	計	
看護婦	面接	120	106	106	107	74	101	93	143	162	188	1,200
	電話	502	555	501	428	447	510	624	724	1,016	1,139	6,446
准看護婦	面接	120	122	124	123	82	87	83	90	78	96	1,005
	電話	386	488	430	347	371	314	355	399	468	535	4,093
助産婦	面接	13	12	5	10	2	7	2	7	2	12	72
	電話	28	52	38	42	28	32	26	26	25	54	351
保健婦	面接	9	7	5	6	7	11	14	13	7	10	89
	電話	42	50	40	17	33	47	62	56	67	63	477
計	1,220	1,392	1,249	1,080	1,044	1,109	1,259	1,458	1,825	2,097	13,773	

(3) 新規求人数

年度 職別	昭和 57年度	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元	2年	3年	計
病院	188	209	332	336	598	559	540	465	593	1,073	4,893
診療所	144	106	103	143	195	204	189	166	165	222	1,640
その他	56	57	88	83	99	59	69	93	75	121	800
計	388	372	523	565	892	822	798	724	833	1,416	7,333

看護婦等無料職業紹介事業実績

看護婦無料職業紹介事業について労働大臣から初回の許可を受けたのは昭和52年であり、2年毎の許可申請を行って今日に至っている。ナースバンク事業を効果的に行うためには職業紹介事業は必須の条件である。

ここに掲載されている表は千葉県看護協会が設立された年度からのものである。

第一表の紹介件数が年々減少している理由は紹介の方法を整理改善し、実質的なものに改めたことによるものである。

そのため第二表の就業者数は増加傾向が続いている。バブルの崩壊、長期の不況等、社会、経済の影響を受けている背景もあるが担当者の努力も多としたい。

(1) 紹介件数

(昭和57年度～平成3年度)

年度 職別	昭和 57年度	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元	2年	3年	計
看護婦	901	775	787	681	756	401	301	244	283	307	5,436
准看護婦	590	647	651	548	464	190	155	113	131	170	3,659
助産婦	52	59	38	63	20	24	13	11	6	21	307
保健婦	56	61	27	54	48	39	34	22	18	16	375
計	1,599	1,542	1,503	1,346	1,288	654	503	390	438	514	9,777

(2) 就業者数

年度 職別	昭和 57年度	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元	2年	3年	計
病院	162	168	197	212	186	191	150	145	163	236	1,810
診療所	107	149	121	124	88	78	67	58	72	106	970
その他	67	73	80	77	84	36	41	39	33	78	608
計	336	390	398	413	358	305	258	242	268	420	3,388

(3) 職業紹介事業許可申請の状況

回数	許可年月日	
第1回	昭和52.11.30～54.11.29	労働大臣 藤井勝志
第2回	◇ 54.11.30～56.11.29	◇ 栗原祐幸
第3回	◇ 56.11.30～58.11.29	◇ 藤尾正行
第4回	◇ 57.11.11～59.10.31	◇ 初村滝一郎
第5回	◇ 59.11.11～61.1.31	◇ 坂本三十次
第6回	◇ 61.11.1～元年10.31	◇ 平井卓志
第7回	平成元.11.1～4.10.31	◇ 福島譲二
第8回	◇ 4.11.1～7.10.37	◇ 村上正邦

潜在看護職員講習会実施状況

(昭和57年度～平成3年度)

年度	施設名	実施期間	参加者数	計	講習内容
57年	千葉大学 附属病院	5日間 11/18～11/22	19名	19名	看護業務、検体採取 中材業務 医療材料 看護記録 内視鏡、X線検査 補液管理、バイタルサイン 見学実習 2時間
58年	同上	4日間 11/7～11/10	18名	18名	看護とは 看護業務 中材業務 医療材料 看護記録 内視鏡、X線検査 補液管理 見学実習(2時間)
59年	同上	5日間 11/5～11/9	27名	27名	前年と同じプログラム実施 講演会に参加する (ホスピスにおけるターミナルケア)
60年	同上	5日間 10/28～11/1	17名	17名	看護について 看護業務 中材業務 医療材料 看護記録 内視鏡、X線検査 補液管理 検体採取 検査の意義 バイタルサイン 実習見学(2日間)
61年	千葉県看護会館 千葉大学 附属病院 船橋保健所 船橋 医療センター 船橋中央病院	2日間 10/20～10/21 2日間 10/27～10/28 11/27～11/28 12/21～12/22	14名 27名	41名	看護の動向 看護業務としての実際 バイタルサイン、看護記録 最近の医療 見学実習(2日間)

年度	施設名	実施期間	参加者数	計	講習内容
62年	千葉大学 附属病院 松戸市立病院	5日間 10/5~10/9	19名	44名	看護の動向 看護の現状、職場への適応 バイタルサイン 看護記録 救急看護 最近の医療 地域へのかかわり 実習見学
63年	千葉県看護会館 千葉大学 附属病院 松戸市立病院 及び看護学校	5日間 10/17~10/21	18名	33名	看護の動向 看護の現状 職場への適応 バイタルサイン 看護記録 救急看護 訪問看護 臨床検査の意義 記録、輸血輸液の管理 見学実習(2日間)
平成元年	同上	5日間 10/16~10/20	27名	29名	同上
2年	葛南病院 松戸市立病院 千葉大学 附属病院 君津中央病院	5日間 10/1~10/5 10/15~10/19 10/22~10/26 10/29~11/2	17名	49名	同上
3年	船橋医療センター 葛南病院 君津中央病院 成田赤十字病院 千葉大学附属病院 松戸市立病院 千葉労済病院	9/30~10/4 10/14~10/18 10/14~10/18 ◇ 10/28~11/1 ◇ ◇	18名 4名 3名 13名 7名 12名 6名	63名	看護の動向 看護の現状 職場への適応 訪問看護 バイタルサイン 看護記録 注射、輸血、輸液の管理 臨床検査その意義 事例をとおして看護を考える。見学実習

電話相談事業

公益的事業を行う団体として法人格を取得しているのでナースバンク事業の他に看護職としての可能な公益的事業はないものかと検討を重ねた結果、電話相談を開設した。

既の実績をあげている先進県の見学等を行い小児看護の経験のある相談員の雇用等準備を整えて昭和59年2月に業務を開始した。

その後社会の高齢化が進み訪問看護の必要性が各方面から唱えられるようになった。当協会としても大いに関心のあるところであったが訪問事業を行うだけの自信に乏しく前段階として老人対象の電話相談を行ってまずは地域における老人の実態を把握することから取組むこととなった。

そこで昭和62年7月に老人電話相談が開始された。

育児と老人の電話相談はそれぞれに世相を反映しての相談内容であり参考になるものがある。

本事業は多少宣伝費を要するものであるが、子を持つ母親や老人をかかえる家族のお役にたっていることはやり甲斐のある事業である。

赤ちゃん電話相談事業

本事業は昭和59年2月1日に開設して8年を経過した。小産小子の時代を迎えて次代を背負う大切な子供達の育児相談をとおして社会に貢献することを目的として開設したものである。以来8年間に表の通りの実績をあげているところから、身近に相談者のいない核家族の時代に社会に役立つ事業であるものと考えられる。

1. 相談者数と件数

年度	昭和59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	3年	計
人数	2,389	3,068	2,993	2,993	2,834	2,726	2,624	2,640	22,563
件数	2,716	3,816	3,544	3,392	3,160	3,014	2,892	2,914	25,448

2. 相談内容別件数

内容 年度	発育	食事栄養	身体保健	情緒家庭生活	母親の問題	その他	計
昭和59年	690	1,586	1,839	894	149	257	5,415
60年	1,153	2,421	2,986	1,581	417	357	8,915
61年	771	2,307	2,532	1,721	1,245	194	8,770
62年	809	2,372	2,413	2,066	2,002	200	9,862
63年	684	2,183	2,136	1,781	1,665	252	8,701
平成元年	720	2,153	1,935	1,652	1,358	118	7,936
2年	676	2,106	1,895	1,556	1,193	89	7,515
3年	631	2,327	1,995	1,467	1,191	143	7,754
計	6,134	17,455	17,731	12,718	9,220	1,610	64,868

3. 年齢別内訳

年齢 年度	0才	1才	2才	3才以上	その他	計
昭和59年	2,303	265	68	41	39	2,716
60年	3,236	338	125	75	42	3,816
61年	2,878	373	136	116	41	3,544
62年	2,726	358	151	109	48	3,392
63年	2,458	366	159	123	54	3,160
平成元年	2,301	332	177	164	40	3,014
2年	2,194	342	152	157	47	2,892
3年	2,278	337	138	142	19	2,914
計	20,374	2,711	1,106	927	330	25,448

老人看護相談年度別実績

1. 相談内容

年度	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	計
痴呆に関するもの	19	42	88	75	104	328
介護方法	23	31	55	46	91	246
介護用品	10	14	24	15	19	82
施設入所	9	8	44	21	39	121
医療費	2	1	21	5	5	33
健康相談	6	11	52	26	9	104
その他	1	2	57	31	41	132
計	70	108	341	219	308	1,046

2. 相談者の男女別および年代別状況

年代	50代		60代		70代		80代		90代		不明		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和62年	/	2	5	3	9	19	8	18	/	2	3	1	25	45
昭和63年	/	/	4	10	12	34	27	7	/	/	3	/	46	51
平成元年	3	3	7	2	15	17	60	18	4	2	12	11	101	53
平成2年	2	4	3	6	8	18	19	9	17	7	/	3	49	47
平成3年	/	1	11	3	24	18	16	30	4	10	1	/	56	62
計	5	10	30	24	68	106	130	82	25	21	19	15	277	258

看護進路相談事業

昭和50年代千葉県衛生部は高校生を対象として「1日看護婦」事業を各医療機関において実施し実績をあげてきた。

その経過をふまえて昭和61年度より看護進路相談事業と事業名を改めて千葉県看護協会に委託され今日に至っている。

下記の実績は委託以後の61年から6年間のものである。

相談日数の割に相談者数が増加していない理由は社会的背景があると思う。

3Kや6Kの影響で控え目になっているのではないか。

ここには掲載できないが、4年以降は倍の増加を示している。

看護進路相談事業実績

(昭和61年度～平成3年度)

1. 実施状況

年度 \ 年令	昭和61年	62年	63年	平成元年	2年	3年	計
日数(延べ)	47	57	85	75	118	124	506
参加高校数	139	175	156	114	103	136	823
相談者数	915	1,078	866	494	503	657	4,513
定例等	725	638	328	225	147	292	2,355
地区相談	190	440	538	269	356	365	2,158
(施設見学)	(13)	(191)	(486)	(324)	(262)	(400)	(1,676)

2. 参加高校の状況

年度 \ 年令	昭和61年	62年	63年	平成元年	2年	3年	計
公立	109	100	78	68	82	88	525
私立	30	30	16	20	21	48	165
計	139	130	94	88	103	136	690

訪 問 看 護 事 業

千葉県看護協会が設立された当時は看護界にようやく訪問看護取組の必要性を論じ始めた頃であった。

当協会としても公益的な事業として訪問看護にどう取組むべきか役員会や教育委員会で検討が開始されたのである。

しかし先ずは地域の実態を把握しなければならないと考えて、各市町村を対象に調査を行うことになった。創設日も浅い当協会が市町村を対象にしての調査にどの程度応じていただけるのか不安であったが、結果的には好成績で有意義な調査となった。

この調査は58年に実施され年度末に市町村訪問看護従事者対象（非会員）の第1回研修会を開催したが、多数の参加者が受講して研修の機会に恵まれない方々に非常に喜ばれた。

翌年に訪問看護事業委員会が設置された。設置の目標は訪問看護関係の研修を企画実施すると共に、職能団体として訪問看護事業をどう推進できるか方向づけることであった。

又、先進県における訪問看護事業の情報収集を行い県内市町村の訪問看護従事者の確保状況、就業看護職員の意識調査を行っている。

委員会としては将来訪問看護を行うために地域における老人の実態を知る必要があることを考え、静岡県看護協会に電話相談事業の見学に出向し、昭和62年7月に老人看護電話相談を開設した。昭和63年には厚生省訪問看護モデル事業の訪問看護婦講習会を受託し、松戸保健所を会場として実施した。

平成元年からは訪問看護婦養成講習会として120時間の長期講習会を当協会の主催により毎年実施し今日に至っている。

その後訪問看護事業委員会活動は専任職員を必要とするまでに拡充され平成2年長谷川栄子氏を迎えてきめ細かな運営が出来るようになった。

又、委員会がこれまでに手がけた調査は別掲のとおりである。

平成3年老人保健法の一部改正があり訪問看護が制度化されることになったため、理事段階での取組をしなければならないと判断し、訪問看護ステーション開設準備委員会が設置され検討に入った。

看護職能団体としてふさわしい事業ではあるが収益を伴う事業の開設が如何にとり組みがたいものであったか歩んだ道程をふりかえるとき全く前進のない時期もあり感慨一入のものがある。

ようやく開設の準備が出来上がりステーションの指定を受けたのは平成6年1月である。その詳細については次回20年誌にふくまれる事項であるため省略する。

訪問看護事業委員会の活動

(社)千葉県看護協会が昭和57年に設立されたことにより支部と県協会との2本建運営が開始された。そこで運営上の混乱をさけるため支部委員会と重複することのないよう県協会は極力委員会の設置を考慮して、只一つ訪問看護事業委員会のみを置くことから出発したが、それは昭和59年からである。

以下年次を追って活動経過を示すこととする。

年 度	事 項
昭和58年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員会は教育委員会の協力を得て市町村における訪問看護従事者対象の実態調査を実施する。 第1回訪問看護従事者講習会実施（2日間）
昭和59年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護事業委員会が設置され事業目標の検討を行う ・ 第2回訪問看護従事者研修会実施（2日間）
昭和60年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職能団体として事業開発に向けて検討に入る ・ 山梨県訪問看護事業の情報を収集する ・ 第1回保健所対象の訪問看護実態調査実施 ・ 第3回訪問看護従事者研修会実施（2日間）
昭和61年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護の実施に備え「老人看護電話相談」事業開設の準備を行う ・ 静岡県看護協会相談事業視察 ・ 第4回訪問看護従事者研修会実施（2日間） ・ 日本看護協会訪問看護研修会に参加
昭和62年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「老人看護電話相談」開設（7月） ・ 第5回訪問看護従事者研修会実施（2日間） ・ 日本看護協会訪問看護研修会に参加 ・ 厚生省、訪問看護モデル事業における訪問看護研修会の受託 ・ 第2回医療機関対象の訪問看護実態調査及び意識調査実施 ・ 日本看護協会訪問看護研修会に参加

年 度	事 項
昭和63年	前年度実施の調査のまとめを行う 電話相談内容の分析を行い今後の方向につなげる 訪問看護婦養成講習会（厚生省委託 120時間） 第6回訪問看護従事者研修会実施（2日間）
平成元年	日本看護協会訪問看護研修会に参加 第1回訪問看護婦養成講習会実施（長期研修120時間） 第7回訪問看護現任者研修会実施（短期研修2日間） 第3回訪問看護実態調査について不確実な部分の追調査を実施 訪問看護継続研修会実施（養成講習修了者対象）
平成2年	第2回訪問看護婦養成講習会実施（長期研修120時間） 第8回訪問看護現任者研修会実施（短期研修2日間） 訪問看護継続研修会実施 前年度実施した調査のまとめ 「訪問看護ステーション」開設に向けて検討する。
平成3年	第3回訪問看護婦養成講習会実施（長期研修120時間） 第9回訪問看護現任者研修会実施（短期研修2日間） 訪問看護継続研修会実施 第4回訪問看護実態調査実施

昭和63年度厚生省委託事業

訪問看護モデル事業講習会日程表

月日	曜日	午前 9:30 12:30		講 師	午後 13:30 16:30		講 師	会 場
9/1	木	開講式 オリエンテーション	訪問看護の 意義と概要	浅野 花子	松戸市における保健、福祉 の現況	高崎 寛 佐藤あつ子		松戸市立病院
2	金	松戸市における訪問看護の 特性		加藤まち子	医師と訪問看護婦との連携 医師会の取り組み	小倉 孝 檜山 嘉也		松戸市衛生会館
5	月	訪問技術		松永 敏子	家族の理解	鳥内 節		松戸保健所
6	火	日常生活への援助		山川登貴子	日常生活への援助	山川登貴子		◇
7	水	◇		山本 美代	◇ (グループワーク)	山本 美代		◇
8	木	訪問看護記録		漆崎 育子	慢性疾患	松島 保久		◇
9	金	家庭訪問の実際		保健所保健婦 市役所保健婦	家庭訪問の実際	保健所保健婦 市役所保健婦		訪問実習
12	月	痴呆性老人の特質		大塚 俊男	老人の看護 (リハビリを含む)	三橋 千代		松戸保健所
13	火	訪問看護の経験から		紅林みつ子	保・福・医施策について	大森 道子		◇
14	水	在宅老人の食事について		星 宗夫	グループワーク 訪問看護に ついて・前期講習をふまえて	松戸市 協会・県		◇
16	金	難病患者の看護		川村佐和子	緊急時の看護	川村佐和子		◇
19	月	在宅リハビリ(演習)		薄井 雅代	在宅リハビリ(演習)	薄井 雅代		◇
20	火	家庭訪問		旭・紅林 (同行)	家庭訪問	旭・紅林 (同行)		訪問実習
21	水	医療依存度の高い患者の看護		菅野 重美	在宅リハビリ	旭 俊臣		松戸市立病院
22	木	訪問看護の特性		季羽倭文子	訪問看護の特性	季羽倭文子		松戸保健所
26	月	医療依存度の高い患者への 対応		病棟実習	医療依存度の高い患者への 対応	北野 邦孝		松戸市立病院
27	火	◇		◇	在宅リハビリ	旭 俊臣		AM 松戸市立病院 PM 旭神経内科病院
28	水	終末期の看護		津村真紀子	ケースカンファレンス 事例をめぐって	大神ヨシ子 松戸市保健婦		松戸保健所
29	木	特義見学			特義見学	特別養護老人 ホーム		緑風園・松寿園・南花園
30	金	訪問看護記録の実際 グループワーク		松戸市保健婦	指示書について グループワーク	開講式 松戸医師会		松戸保健所

期間 昭和63年9月1日～9月30日までの20日間

時間 1日の講義は午前9時30分～午後4時30分までの6時間とする

講義及び実習等全日程 120時間

平成元年度 第1回訪問看護婦養成講習会日程表

月日	曜日	午前 9:30 12:30		講 師	午後 13:30 16:30		講 師	会 場
		開講式 オリエンテーション	訪問看護の 意義と概要		コミュニケーション (話し上手・聞き上手)			
10/3	火			実川 美奈			春名 正昭	看護会館
6	金	訪問看護の特性		季羽倭文子	訪問看護の特性		季羽倭文子	〃
13	金	訪問看護の経験から		紅林みつ子	訪問看護の経験から		紅林みつ子	〃
17	火	訪問看護展開プロセス		新津 ふみ	家族の理解		新津 ふみ	〃
20	金	老人の特質		山崎 絹子	老人の特質		山崎 絹子	〃
24	火	日常生活の援助 (洗面・清拭)		戸村 静子	日常生活の援助 (入浴・褥創)		戸村 静子	〃
27	金	日常生活の援助 (食事・排泄)		有田 澄恵	日常生活の援助 (グループワーク)		中村 栄子	〃
31	火	在宅患者食生活		星 宗夫	社会資源の活用		社会福祉士 山口美恵子	〃
11/7	火	痴呆性老人の特質		大塚 俊男	痴呆性老人の看護		石橋 さた	〃
10	金	難病患者の看護		近藤 紀子	寝たきり老人の看護		石橋 さた	〃
14	火	← 9:00 (特 義 さ く ら 苑 見 学 実 習) 16:00 →						
17	金	在宅リハビリ		成田 友紀	在宅リハビリ		江崎 修造	〃
21	火	老人の精神衛生		大塚 俊男	医療保健福祉の施策		大森 道子	〃
24	金	訪問看護記録		篠崎 育子	地域医療の現状について 実習オリエンテーション		呉医師会長 渡辺 武	〃
28	火	← 9:00 (病 院 見 学) 16:00 →						
12/1	金	← 9:00 (病 院 見 学) 16:00 →						
5	火	← 9:00 (病 院 見 学) 16:00 →						
8	金	← 9:00 (病 院 見 学) 16:00 →						
12	火	面接技術 ロールプレイ		山本 延子 山田 邦子	実習から学んだもの (グループワーク)		漆崎 育子 他助言者 2	看護会館
15	金	医療依存度の高い 患者の看護		北村よし乃	反省会	閉講式	会長・理事 2	〃

期間 平成元年10月3日～12月15日までの20日間

時間 1日の講義は午前9:00～午後4:00までの6時間とする。

但し実習は1日7時間とする。

講義及び実技時間数 90時間

実習及び見学時間数 35時間 合計125時間

平成2年度 第2回訪問看護婦養成講習会日程表

月日	曜日	午前 9:30		講師	午後 13:30		講師	会場
		前 12:30				後 16:30		
9/11	火	開講式 オリエンテーション	自己紹介	役員・委員 赤井、実川、長谷川	訪問看護の 意義と概要	地域看護への 導入	松戸市役所 山川登賀子 長谷川	看護会館
13	木	訪問看護の特性		ホスピタリティ研究会 季羽倭文子	訪問看護の特性		ホスピタリティ研究会 季羽倭文子	〃
18	火	老人の特質		八街総合病院 山崎 絹子	老人の特質		八街総合病院 山崎 絹子	〃
20	木	訪問看護展開プロセス		新宿区役所 新津 ふみ	家族の理解		新宿区役所 新津ふみ子	〃
25	火	社会資源の活用		社会福祉士 山口美恵子	訪問看護における医師との 連携		千葉県医師会 栗原 伸夫	〃
27	木	日常生活の援助		(環境・循環・呼吸・衣服) 与薬		成田赤十字看護専門 学校 清田 敏		〃
10/2	火	〃		(清潔・演習)		〃		〃
4	木	日常生活の援助(睡眠)		成田赤十字看護専門学 校 清田 敏恵	障害児・者の看護		千葉県リハビリセンター 渋谷 蘭子	〃
9	火	9:30~12:00 老人ホームのめざすもの		さくら苑 片山 進	老人の精神保健		国立精神・神経センター 大塚 俊男	〃
11	木	痴呆性老人の特質		国立精神・神経センター 大塚 俊男	痴呆性老人の看護		石橋 さた	〃
16	火	訪問看護記録		医務課 山木 まさ	在宅患者の食事		千葉大学附属病院栄養 管理室 大野 邦子	〃
18	木	← 特 老 施 設 さ く ら 苑 見 学 →						さくら苑
23	火	保健・医療・福祉の施策		医務課 木村サダ子	難病患者の看護		精神神経科学総合研究 所 川村佳和子	看護会館
25	木	面接技術(ロールプレイ)		医療技術大学校 山木 延子	面接技術(ロールプレイ)		医療技術大学校 山木 延	〃
30	火	医療依存度の高い患者の看護		帝京平成短期大学 山崎 摩耶	医療依存度の高い患者の看護		帝京平成短期大学 山崎 摩耶	〃
11/1	木	在宅における終末期の看護		紅林みつ子	在宅ケアにおける法的課題		厚生省病院管理研究所 小山 秀夫	〃
9	金	在宅リハビリ		厚生年金病院 提箸 武洋	在宅リハビリ(実技)		厚生年金病院 提箸 武洋	〃
13	火	← 病 院 実 習 →						
14	水	← 病 院 実 習 →						
20	火	← 病 院 実 習 →						
21	水	← 病 院 実 習 →						
27	火	訪問事例検討会			訪問事例検討会			看護会館
29	木	特別講義	ナイチンゲール看護研究所 金井 一薫	反省会・閉講式		会長・理事	〃	

期間 平成2年9月11日～10月29日までの3日間

時間 1日の講義は午前10時より午後4時までの5時間とする。

但し、実習は1日7時間とする。

講義及び実技時間数 90時間

実習及び見学時間数 33時間 合計 123時間

平成3年度 第3回訪問看護婦養成講習会日程表

月日	曜日	午前 9:30 12:30		講 師	午後 13:30 16:30		講 師	会 場	
		開講式 オリエンテーション	自己紹介		訪問看護の 意義と概要	地域看護へ の導入			實川 常務理事
9/5		開講式 オリエンテーション	自己紹介	役員・委員	訪問看護の 意義と概要	地域看護へ の導入	實川 常務理事	健康福祉センター 村田 章	看護会館
11		訪問看護の特性		ホスピスケア研究会 季羽倭文子					〃
12		訪問看護展開プロセス		ケアコーディネーション 研究所 難津ふみ子	家族の理解		ケアコーディネーション 研究所 新津ふみ子		〃
17		老人の特質		八街総合病院 山崎 絹子	訪問看護における医師との 連携		千葉県医師会 栗原 伸夫		〃
19		社会資源の活用		社会福祉士 山口美恵子	在宅患者の食事		千葉大学附属病院 栄養管理室 大野 邦子		〃
24		日常生活の援助		(環境・循環・呼吸・衣服)			日赤千葉県支部 戸村 静子		〃
26		訪問看護記録		医務課 山木 まさ	保健・医療・福祉の施策		保健予防課 木村 サダ子		〃
10/1		日常生活の援助(睡眠)		国立千葉県訪問看護学校 鈴木とみ子	在宅における終末期の看護				〃
3		日常生活の援助		(清潔・演習)					〃
9		難病患者の看護		都神経科学総合研究所 牛込三和子					〃
11		老人の精神保健		国立精神・神経センター 榎 良勝	痴呆性老人の特質		国立精神・神経センター 大塚 俊男		〃
15		老人ホームのめぐすもの		さくら苑 片山 進	痴呆性老人の看護		国立下総療養所 菅谷 はま		〃
17		(特 老 施 設 さ く ら 苑 見 学)							さくら苑
22		面接技術(ロールプレイ)		医療技術大学校 金子 恵子					看護会館
24		障害児・者の看護		千葉リハビリセンター 渡谷 紘	在宅ケアにおける法的課題		厚生省病院管理研究所 小山 秀夫		〃
29		看護の原点		ナイチンゲール研究所 金井 武洋					〃
11/1		在宅リハビリ		厚生年金病院 提箸 武洋					〃
5		← 病 院			実 習 →				実習施設
6		← 病 院			実 習 →				〃
12		← 病 院			実 習 →				〃
13		← 病 院			実 習 →				〃
19		医療依存度の高い患者の看護		帝京平成短期大学 山崎 淑子					看護会館
21		訪問事例検討会			反省会・閉講式		会長・理事		〃
									〃

期間 平成3年9月5日～11月21日までの23日間

時間 1日の講義は午前10時より午後4時までの5時間とする。

講義及び実技時間数 90時間

実習及び見学時間数 35時間 合計 125時間